

会長就任あいさつ

会長に就任して

福岡県保健環境研究所長 吉村 健清



今年度から2年間、佐藤前会長(宮城県保健環境センター所長)の後任として、会長の重責を担うこととなりました福岡県の吉村健清です。これまで、常任理事、副会長として全環研協議会の運営に関わり、地環研の現状の厳しさを目の当たりにしてきましたので、会長としての役が果たせるか危惧しておりますが、皆様の支援協力を得て、全環研のために全力を尽くしてまいりますのでよろしくお願い致します。

さて、全環研協議会の運営には様々の課題がありますが、佐藤前会長の御尽力で、運営改善のためのルールを敷いていただきました。その第1点は、会長及び企画部会長の職務の軽減化を図ったことです。これまで会長が行っていた環境省への要望書の取りまとめ及び企画部会長が行っていた会長表彰業務を2人の副会長にそれぞれお願いいたしました。これについては、第1回理事会(H21.4.27)に諮り、要望書の取りまとめを前田副会長(茨城県霞ヶ浦環境科学センター長)に、会長表彰業務を吉田副会長(大阪府環境農林水産総合研究所長)に担当していただくことが了承されました。第2点は、会長、副会長の選出方法をルール化したことです。これまで、会長職の選出については明確なルールが無く、現会長、副会長等を中心に機関の規模等を考慮しつつ、適任と考えられた方に打診するという方法で行ってきました。しかし、各機関とも予算・人員の削減等が強いられ、会長職を引き受けていただける機関を探すのが極めて困難な状況になっています。このため、会長職務の軽減化を図り、その上で、各支部持ち回りにより会長、副会長を選出する方法をとることにいたしました。

ここで、改めて会長としての考え、抱負を述べたいと思います。

第1に、環境省要望の改善について、昨年度、前会長のもと、単に人、物、金の要望ではなく、地方分権化の動きの中で、地環研本来の機能を発揮するための環境省への提言、要望をまとめていこうという方針が提案されました。平成21年7月の要望書は、この方針に基づいて提出されたものです。来年度もこの方針に従い、建設的な要望書を前田副会長を中心に全機関の知恵を集め作成されることを期待しております。

第2に、地環研のあり方等に多くの課題があることは、昨年度、全環研協議会が実施したアンケート調査「地方環境研究所の将来について」の報告書に示すとおりです。この問題に対し、環境省は本年度中に、地環研に期待される事項とそのための方策を提言としてとりまとめることにしていますので、この中に全環研会員機関のそれぞれの意見が十分反映されるよう、会長として力を尽くしたいと考えております。

第3は、地環研の活性化です。地環研職員の研究活動を地方環境行政に生かすために環境省、国環研とはもちろんのこと、大学や関連学会等との連携を強化したいと考えております。また、環境問題に対し、地環研がこれまで培ってきた技術、経験を国際交流に十分生かし、世界の環境問題の改善に寄与したいと考えております。

私は、前会長が示された改善内容を具体的に実施していくと同時に、地環研が必要なことを今のうちにルールを敷き、職員がのびのびと各地の現場の環境問題に対処できる力を発揮できる場を作ってまいりたいと考えております。